

一般質問(個人質問)

12月定例会では、12月7日・8日・11日・12日の4日間にわたって、市政一般質問(20人)が行われ、当面する市政の重要課題について活発な論議が交わされました。今回の個人質問では会派ごとに一議員1項目ずつ計20項目を掲載しております。

自由民主党

軍艦島の活用

議員 軍艦島の保存活用について伺いたい。

市長 軍艦島を近代化産業遺産として後世に語り継ぎ、その特徴的な島の形を観光資源として生かすため、平成17年度に軍艦島保存活用技術検討委員会を設置し、島の現況調査を実施するとともに、その保全や建築物の補修等の技術的可能性について検討した。本年度は、庁内にワーキンググループを設置し、同委員会の検討結果を踏まえ、島の保全や上陸に必要な施設整備のあり方を検討している。

また、文化庁が募集する世界遺産暫定一覧表追加資産に、九州・山口の近代化産業遺産群として、軍艦島、小菅修船場、旧グラバー住宅等の産業遺産を九州・山口の県市と共同提案した。しかしながら、軍艦島については、過酷な自然環境の中にあつて建築物の長期にわたる維持管理は困難であるため、建築物の保存は行わず風化の過程を見せることを条件としている。

新市立病院建設

議員 新市立病院建設のタイムスケジュールと検討課題について伺いたい。

病院局長 平成19～21年度の3カ年での用地取得、既存建物解体及び整地を終えたい。また、これと平行し、19年度に、部門別・診療科別に、機能等も含めた基本計画及びPFI導入可能性調査を行い、その後、基本設計及び実施設計を経て、新病院本館の建設工事を行うこととし、25年度中には新病院本館への移転を完了したい。病院の機能を移転した後、現在の市民病院の建物を解体し、その跡地に駐車場棟などの附帯設備を建設し、27年度までに事業を完了することを計画している。

新病院の機能・規模については、地域医療支援病院を目指すとともに、救急医療、周産期医療、災害拠点施設、結核・感染症などの政策医療に係る諸機能を整備し、約450床の規模とすることを計画しているが、最近の医療を取り巻く環境が著しく変化していることを考慮し、医療関係者等の専門的な情報や意見を参考に、今年度中に市の最終的な方針を決定したいと考えている。

行政経営改革

議員 本市の行政経営改革の取り組みについて伺いたい。

市長 本市では、平成18年3月に、計画期間を18～22年度とする第四次行政改革大綱を策定し、事務事業全般にわたる徹底的な経費の削減と自主財源の確保に努めることにより、計画期間中における累積の経済効果を20億円以上あげるほか、人件費を30億円削減する

こと等を重点目標としている。また、この実施計画として94項目の個別の計画を定め、保育所における保育士の配置基準や保健センターにおける健診業務の見直し、ごみ収集業務の委託等、民間活力を積極的に活用しながら、市民サービスの向上と簡素で効率的な行政運営に向け、行政改革を推進していきたいと考えている。

このような行政改革により財源を確保し、第三次総合計画後期基本計画に掲げる施策を着実に実施することにより、「活力と潤いにあふれ、歴史がいきづく交流拠点都市」を目指し、迅速かつ柔軟に対応できる自律的な行政経営を推進していきたい。

被爆遺構の保存

議員 民間所有の被爆遺構の保存・活用についての見解を伺いたい。

原爆被爆対策部長 被爆者の高齢化が進み、被爆体験の風化が懸念される中、被爆の実相を物語る被爆遺構の保存は今後一層重要になると考えている。本市では、「長崎市被爆建造物等の取扱基準」により、被爆遺構をランクづけし、取り扱いを定めている。保存対象とする民間所有の被爆遺構については、保存整備に係る補助対象経費の4分の3以内の額を助成することとしている。

被爆遺構の活用については、広報紙等による制度のPRに努めているほか、昨年からは、修学旅行生や観光客のために平和案内人等による碑巡りガイドが実施されており、原爆の悲惨さへの理解が広まるとともに、被爆遺構の保存の重要性に対する市民の認識が深

まるものと期待している。

今後とも、被爆遺構の所有者からの情報収集に努め、個々の現状把握とデータベースの充実を図り、被災資料説明板を設置するなど、市民・観光客にわかりやすい状態で整備したい。



山王神社二の鳥居

民主・市民クラブ

さるく観光

議員 長崎さるく博'06の評価と、今後について伺いたい。

市長 長崎さるく博'06は、盛況のうち22日間の会期を終え、多くの観光客や市民に参加していただいた。同博覧会の成功により、本市は独自のまち歩き観光のスタイルを確立し、新しい日本の都市観光のあり方を示した意義は非常に大きなものであったと評価している。また、市民が本市の歴史や文化を再発見し、地域に強い関心や誇りを持つことで、さまざまな自主活動が生まれ、都市活力が高まり、結果的には観光客を誘引する都市魅力の向上につながると考えている。

今後は、さるくガイドと、(社)長崎国際観光コンベンション協会が運営するボランティア観光ガイドのシステムを